

ロツテルダムまで車で行ったのですが、高速道路は発達し、それに、自転車専用道もつくってあって、細い点まで気を配った、美しく且つ活気に満ちた国でした。

ロツテルダムの港は、ニートポロと名付けられています。欧州の玄関港という意味で、世界の有名企業、シエル、エッソ、カルテックスなどの石油会社を中心に、大工業地帯が延々と続いています。出入トン数もニューヨークを引きなして世界第一。石油は鉄管でもって、西独、ベルギーに送られています。

ハワイ県人会の歓迎会。皆さん大変なご活躍ぶり。(ハワイの日系新聞から)



真昼に黒人暴動を 目撃

★アメリカ

ニューヨーク、ワシントンなどを訪れて、黒人問題の生々しさを知りました。ニューヨークでは、真昼間、ビストルの撃ち合いがあつていましたし、ワシントンの商店街は、昨年の黒人暴動で、目茶苦茶になっていました。

テレビニュースの解説者はすべて黒人で、本当に気をつかっているなど思いました。

ロスアンゼルス、ホノルルでは、県人会の方々の非常な歓待を受けました。それそれ大変に活躍をしておられ、成功しておられます。

ロスでは、都市再開発を見せてもらいました。地下三階に駐車場を設け、一階が車道、二階の線で、ビルやアパートをつないでしまつて、これが人道。車時代の全く斬新的な、車道、人道分離の立体的都市づくりです。

このやり方は、ロンドンでも、ニューヨークでも行なわれていました。

それから、県人会の人に聞いたのですが、アメリカでは、日本研究が盛んに行なわれています。明治百年、しかも、第二次大戦であれほど

やられた日本が、どうして今日、これ程発展して来たのか。第一は宗教ではないか、ということ。第二には食物ではないか。ということ。第三は住まいではないか。家に縁をつけることが流行しはじめた。ということでした。

遠く離れてみた日本

日本は美しい。そして活気にあふれています。ただ残念なことは、国土が狭いということ。今後、いかに国土を有効適切に利用するかということが、最大の課題でしょう。

私は、イタリアが、国全体または、個々の企業にとつては、不利であることが明らかであるにもかかわらず南北格差是正のために努力しているあの態度は見習うべきところ多いものと思えます。日本も単に、国民総生産の順位のみを目標にすることなく、地域の均衡ある発展ということにもっと力を入るべきだとつくづく思っています。

一カ月欧米を視察させていただきました。今後県政を推進して行く上に、一つでも役立てたい。そして、美しく活気に満ちた県づくりに努力したいと考えています。

町から★村から

津奈木の ペーロン

津奈木町

恒例の津奈木町のペーロン大会は盛大に終わった。

国道三号線ぞいの干拓の堤防にあふれた見物客。その堤防下五百米の直線コースが競技場であった。熱戦の興奮いまださめやらずというところ。

ところでこれまで海辺部落の所有であった舟を、四十一年度から町費でつくり、どの部落からもでられるようになってから、ペーロンは町全体のものとなつてさらに盛り上がりつてきた。

カスーとペーロンは同じ親から生れた兄弟である。進行方向をむいて楫で水をかいて舟をやる方法は全く同じ。吉野伸篤君がメキシコオリンピック、カスー選手になり得たのも、もとはといえれば小さい時からペーロンに親しんでいたからである。

カスーは一人か二人であるが、ペーロンは津奈木の場合は十五人である。(漕手十二人、船長・鐘打・舵手各一人)ペーロンは腰かけてかくが、カスーは立てひざで腰をあげてかく。従つて楫の柄の長さが違ってくる。ペーロンは短かく、カスーは長い。

天島の島々が赤く染まって、ペーロン大会が終ると秋の仕事が待っている。(戸北郡津奈木町公民館 岡松 壮)

新しい海の観光

天草海中公園の構想

「海中公園」という名が聞かれ始めたのは、一九六二年アメリカのシアトルで開かれた第一回世界国立公園会議で海中公園制度を設けることが勧告されてからといえる。わが国でも、さっそく厚生省が自然公園行政の一環として、海中景観のすぐれた海域を、海中公園として指定して、その保護をはかるとともに、広く国民の教化に資したい意向を明らかにした。その後、にわかに各地の動きが活発化してきたが、その候補地の主な地区を拾ってみると、北から陸中海岸、佐渡、若狭湾、山陰海岸、伊豆半島、三河湾、南紀海岸、四国海岸、天草海岸、日南日豊海岸、鹿児島など、ほとんど全国に及んでいる。ところで天草海中公園の構想は……

天草の海中公園は

天草は、大小無数の島々や半島、入江などが複雑にいきりくみ、わが国の沿岸の中でも最も変化に富んだ海岸景勝地の一つであり、昭和三十一年国立公園に指定されているが、海域においても、対馬暖流の影響をうけて、海中生物も美しい色と形をした暖海性のものが豊富で、さながらお花畑を思わせる。

海中公園指定への道

熊本県においても、早くからこれに着目して、地元の積極的な協力を得ながら、昭和四十二年度海中公園センターに委託して、沿岸全域にわたる海中の学術調査を実施したところ、天草地域の生物相は景観的にも学術的にも、わが国では第一級に値するものであると折紙をつけられた。

また、昭和四十三年度には、厚生省国立公園部による現地調査が実施され、市町当局をはじめ、漁業関係者の積極的な協力によって、海中公園候補区域における漁業の自主規制を申し合わせられるなど、海中公園指定に対する協力態勢がととのった。

昭和四十四年度には、ふたたび海中公園センターに委託して、利用計画の診断を実施するとともに、海中の撮影を行

ない、カラー写真集を作成するなど着々指定の準備をすすめてきたが、この間、県及び県議会をはじめ地元は再三にわたり、指定を促進するための協議や陳情を行なうなど、第一次指定を目指して強力な態勢を確立し、運動を続けている。

本県における海中公園候補地区

現在、天草で候補地として進めているところは、

- ・苓北町富岡の「つつませ」と「白岩崎周辺」
- ・天草町大江地先の「大ヶ瀬一帯」
- ・牛深市「鶴崎の地先一帯」と「下須島と築島の瀬戸」「法ヶ島周辺」

これらは、いずれもサンゴ類や海藻が豊富で、その上を華麗な熱帯性魚類が遊泳しているが、特に「色もの」は日本では随一といっても過言ではない。

海中公園の保護と利用

海中公園の目的は、その名のように、サンゴ礁、その他色とりどりの海中生物の形造る華麗で神秘的な海の景観を「保護」しながら、楽しく「利用」することにある。そのため、厚生省では、法的